

あおもり

県民
だより

2013
6
月号
No.139



郷土を愛する人づくり

現場で見えて、聞いて、触れて。
開拓スピリットが人を育てる。

私が携わる宇宙開発の決定的な特徴は、扱うものが全てが消耗品だということ。ロケットは一度打ち上げたら、故障しても直しに行くことはできません。それだけに何か教訓が得られれば、各自がそれを持ち運び、伝え、共有していくことが大切になります。

しかし、自分の置かれた環境から何を、どのように得ればよいかを教えてください。マニュアルなどありません。そこで必要なのは、自ら情報を開拓し、吸収していく力です。興味を抱いた事柄に積極的に乗り出していける人ほど、伸びていくと思います。

高校の講演会で話をするとき、最初に「ノートを取らないように」と生徒たちに伝えます。筆記に気をとられると肝心なことを聞き逃してしまうからです。生徒たちが、その場の雰囲気から何かを感じ、吸収することがとても重要です。

教育というのは、「授業」、「受講」というように生徒が受け身になりがちですが、受け身にならぬよう心がけるべきです。いろいろな場所に出向き、見て、聞いて、触れて、人と語らう。こうした経験が、新たな成長につながっていくと思います。

川口淳一郎(宇宙航空研究開発機構教授)

CONTENTS
目次

- 特集:郷土を愛する人づくり.....①~⑤
- 申吾のほっとコラム.....⑥
- あおもりの食材でおいしいお弁当
土砂災害から家族を守るために.....⑦
- 「アナタの声」を県政へ
あおもりインフォメーション.....⑧

編集発行/青森県広報広聴課
平成25年6月1日発行(偶数月1日発行)